

みなさんは5月に「いじめについて考える日」でお話したことを覚えていますか？とても大切なことなので、忘れないように何回も言います。10年くらい前までは、何回か続けてするのが「いじめ」でしたが、今は自分のまわりの人からたたかれたり、嫌なことを言われたり、された人が嫌だなと感じたら、たとえ一度だけであっても、それは「いじめ」ということになります。された人がどう思うかで、いじめかどうかが決まります。

みんながよく使うドッジボールは、釘がささったら穴があき、くぎをぬいたとしても、穴は残ったままとなります。その穴は元には戻りません。いじめはそれと、とてもよく似ていますと言いました。身体的な暴力だけではありません。むしろ、言葉の暴力の方が傷つくことが多いかもしれません。悪口を言われて、まわりの誰かを傷つけたとします。あとで謝っても、言ってしまったことは取り返しがつきません。悪口を言ったり、汚い言葉を使ったりするのは気持ちの良いものではありません。皆さんにはぜひ、その言葉を言うと言われた相手がどう思うのかを考えて欲しいと思います。

学校で過ごしているといろいろなことが起こりますが、具体的に気になることを今日は2つ言います。

一つ目は、高学年になってきたら、グループができますね。ちょっとしたことで、気に入らないことがあると、あの子とは「もうしゃべらんところ」と言ったり、他のグループの子と仲良くしていたりすると、「裏切ってる」と言って仲間外れにしたりすること。最近では、ゲームの中で集中的に攻撃したり、仲間外れにしたりこともよくあるようです。これらは全ていじめです。先生たちはこのような行為は認めませんし、許しません。それは学校の外でのことでも同じことなのでよく覚えておいてください。何かをされてしんどいなと感じたら、親でも先生でも誰でも構いません。必ずまわりの大人に相談するようにしましょう。

二つ目は、低学年でよくあることですが、何か自分で伝えたいことがあってもうまく言葉にならずに、すぐに手をだしてしまう人がいます。大人になってから、そのような暴力をふるうと暴行罪、傷害罪という犯罪になります。暴行罪は殴る、蹴る、押す、物を投げる行為です。そして、暴行をした結果、相手にけがをさせれば傷害罪になります。先に手を出した方が、ダメということになります。さらに手を出したからやり返すと「喧嘩両成敗」といって、どちらも悪いということになりますので、注意をしてください。